

自分の成長を振り返り、卒業にあたつての文章を書く 一徹国語人

六年間の学校生活の振り返りを「自分の成長」という視点からとらえさせてみる。子どもたちは、実に多くの出来事や相手・したこと・見たことなどを思い出す。そして、その折り折りの驚きや喜びの情感・努力などを、楽しくあるいはほろ苦く味わい直す。

そうした振り返りの中からいくつかを選び、友達や先生・親たちに語り伝えるべく整理して文章の構成を考え始めると、子どもたちは六年間の歩みを懐かしく思い出す。さらに、なんとなく誇らしく思える自分を発見したりもする。思い出した内容の構成によっては、やがて始まる中学校生活やそれ以後の自分の生き方の柱になるようなものを見つけ出す場合すらある。そこに、先生の誘い込みの妙味がある。

こうした活動は、学校での学習時間としては多くはとれず、特設單元になりやすい。材料集めや再構成を家庭学習にゆだねてしまうこともある。それだけにいつそつ

学級での一斉学習で把握^{はあく}させたい基本的事項の押さえを確実にする必要がある。そのうえで、精叙するところと略叙するところを工夫させたい。

この学習を成功させるための教師の役割は難しい。個々の子どもが自分の内面を分析し、どう自分の成長と認識するかは実にさまざまである。内容が個別で形式化しにくい。したがって、学習展開中の教師はともすると、「いいねえ」「そうだったねえ」「あつ、そういうふうにもとらえられるね。」などと第三者的な評を投げかけておしまいになりがちである。より深く内面に触れたアドバイスができるようにするためには、個々の子どもを日ごろから深く理解していることが必要である。学習・遊び・委員会やクラブ活動・友人関係・行事や当番活動などへの参加態度などに加え、それらを通したその子の意識や感性・考え方等々もよく理解していなければならぬ。

横浜のある学校でこの特設單元授業を参観した。

この教室の壁面には、一年から六年までで学んだり体験したりした学習のキーワードやキーセンテンスが何枚かの模造紙に整理されて張られていた。ほんの少しを紹介する。

一年四月 学校たんけん 花さがし

教科書にはさくらの花がさいていたけどまだつぼみだった。

二年十月 運動会 大玉ころがし

大玉にはふれなかつたけど六年生のおかげで…(かてた)。

三年五月 全校遠足 五年生と手をつなぐ

どうしても手をつなぐの?「友達づくりです。」「はい。」

四年九月 国語 ごんぎつね

ごんは、ばたりとたおれました。「ごん、おまいだったのか。」

五年十月 社会 情報学習

パソコンで「情報」って言葉をまず調べた。特活 話し合い

六年四月 「卒業」とはどういうことか 一年間の生活のしかたを考えた。

それらの模造紙の上には横書きで一直線に、こう書かれてあった。

生きる力を学ぶ成長の学びあい 自分の成長ひとにぎり 手を広げれば大きな力 笑顔あふれる卒業作文
こうした特設單元を支えているのは、その学校のすべての先生方の指導なのだのと改めて思う。



一徹国語人にご意見・ご質問がある方は、広報課までお便りをお寄せください。一徹国語人ご本人がお返事をいたします。お便りは、誌上にて紹介させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

FAX 03-3493-5483

E-mail: koho@mitsumura-tosho.co.jp